

## 秋のひと時ソウルを歩くその③ (ソウル探検隊)



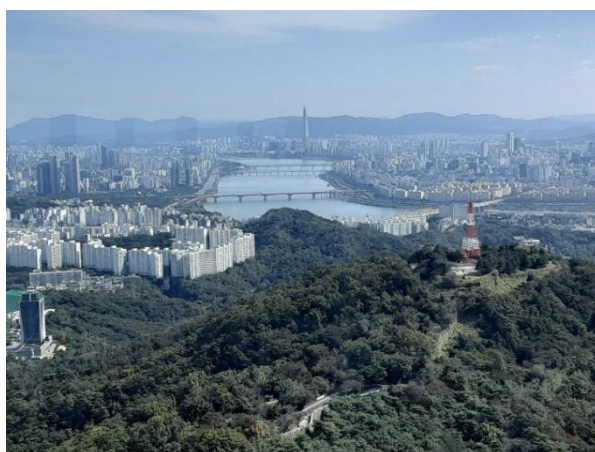
またまた話は前回の続きソウル探検隊。10月から始まった交流会では、かなり多くの子どもたちが発表したNソウルタワーです。9月終わりの良く晴れた休日。妻と二人でソウルタワーを探検しました。N=(南山「ナムサン」の意)

上ってまず感動したのは、古い都の姿が望めたことです。北を向くと「北漢山」(たぶん)この方向には、ガラスにピョンヤンと出ていました。新潟から東京まで約270キロ。それより近いんだと改めて北朝鮮がすぐ近くにあることを感じました。北漢山の前には手前から明洞、宗廟、景福宮、昌徳宮が続き、山の麓には青瓦台も見えました。それをぐるっと囲うように、ソウル城郭もあり、古くから首都(都)に定められた理由が景色を見るだけで、説明されているようでした。そして、ぐるっと回り南の方へ。

(高さ479m タワーだけだと236m)すると、たぶん子どもたちがたくさん住んでいる二村が見え、その向こうに雄大に流れる漢江の姿が目飛び込んできました。そして、もう少し足を進めると、タワー東側に進みます。そこから目を下に向けると、ソウル城郭と言われる遺跡が見えました。まるで竜が山をはっているよう！もっと言えば、万里の長城にも見えました。南の漢江(ハンガン)が天然のお堀、それに続く南山(ナムサン)が第一の防衛線。ソウルタワーの建つ南山から、東西にのびる城壁は首都に選ばれた理由を示していました。この場所、風水でもいいとか。京都にも似ているし、南を湘南の海に面している鎌倉にも少し似ているように感じたのです。都に選ばれるにはそれなりの理由があるのでしょう。

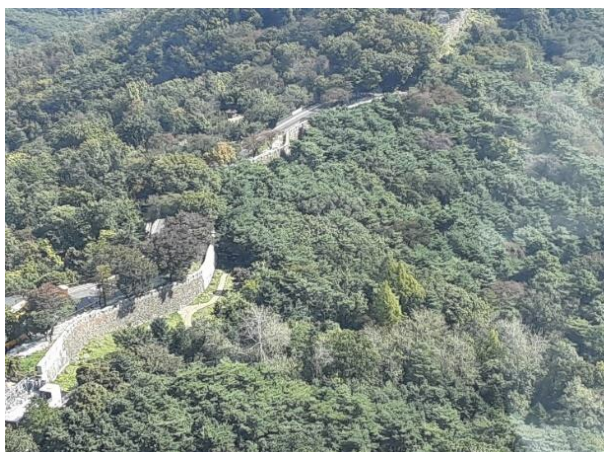


(北向きのガラスにはピョンヤンの表示が)



(雄大な流れハンガンはお堀の代わり?)

この後展望台のカフェでコーヒーをいただき、ゆっくりと歴史に思いをはせながら、1時間後下山しました。のろし台？もあり、いよいよここが重要な守りの場所だったことを感じながら、恋人たちが愛を誓ってかけるカギを横目に家路につきました



(ソウル城壁南の端 まるで小万里の長城)



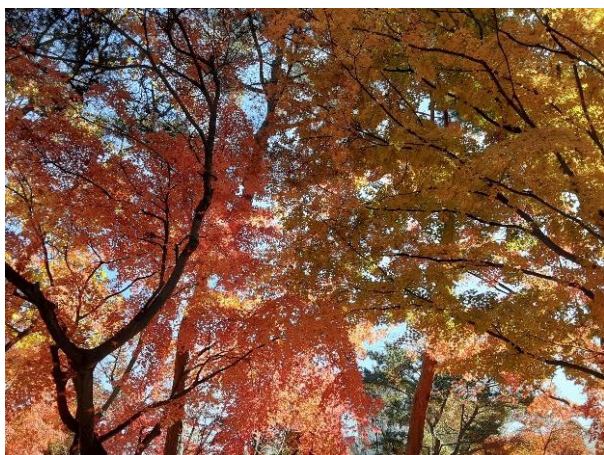
(恋人たちのカギの向こうにのろし台)

## 秋のひと時ソウルを歩くその④ (ソウル探検隊)

さて、めっきり寒くなってきたソウル。そして再び増え始めたコロナの感染。なかなか外に出る機会も少なくなり、探検隊も、年内は「できないな」と寂しく思っております。子どもたちの日記を見させてもらおうと、そんな中でも元気に外で遊んだり、カフェやレストラン、遊園地や動物園など活発に楽しんでいる様子が分かりました。素晴らしいですね。いや、コロナ禍なのにいいのかな？寒くなってきたので、防寒対策を十分にし、感染防止策もしっかりとして、元気にソウルを楽しんでほしいと思います。

11月半ば、まだ紅葉が続いていたので、昌徳宮(チャンドクン)の後苑を訪れました。しかし、後苑は団体での入場しかしていないようで、あきらめ隣接するの昌慶宮(チャンギョングン)とその北側の庭園を散策しました。後苑は来年春か秋へのおあすけとなりました。

それでも、春塘池と呼ばれる池の周り、そこに至るまでの木々が赤や黄色に染まりそれは綺麗でした。新潟にいるときも山での勤務が多く、紅葉は見ていたのですが、いつも通勤の車の中から。久しぶりにゆっくり紅葉を楽しんだ思いでした。ソウルの紅葉素晴らしいです。昌慶宮は、あまりガイドブックには載っていませんが、紅葉した庭は素晴らしかったです。昌徳宮の後苑入口の右横からも入場でき、庭を散策してぐるっと回って、宮殿内に至ることができました。



(撮影日は11月8日。今年は10月半ばから約1か月ソウル市内どこでも紅葉が楽しめました)



**（昌慶宮、宮殿の正殿としては最古の明政殿）**

**（「明政殿」内部天井の彫刻も素晴らしい）**

他の宮殿と一緒に、やはりここも秀吉の文禄・慶長の役で焼失しています。その中でも正殿「明政殿」は再建後（1616年ごろ）そのままの姿で残っているようです。この宮殿、もともと王が政治を行うために建てたのではなく、生活空間を広めるためにつくられたもの。また、他の宮殿が南向きなのに対して、この昌慶宮だけは東を向いて建てられている。生活空間として、王室家族ものごとがたりも豊富だそうで、ドロドロした歴史絵巻が展開した現場でもあったよう。意外と見る価値のあるところかもしれません。

## （北村・三清洞「プクチョン・サンチョンドン」～北村韓屋村～）

紅葉を楽しんだ後、景德宮（チャンドクン）と景福宮（キョンボクン）の間にある、北村・三清洞を訪れました。ガイドブックだともちろんぺったんこですが、ここはかなりのアップダウンがあり、観光にはそれなりの覚悟？が必要です。

まずは、チャンドクンから西の方に進み、一つ目の交差点を北に曲がり坂道を登っていきました。突き当たりがソウル中央高校。ここ、韓流ブームの火付け役になった、「冬のソナタ」の撮影舞台です。その手前に北村韓屋村「北村3景」が迷路のようにあります。そこから進路を左、西にとり、大きな通りを渡るとメインである「北村6景」があります。狭い迷路を両脇に古い韓国の伝統的な家々が並んでいます。もちろんここには今でも住人がおり、曲目にはいたるところに日本語で「静かに！」という看板がありました。また、ボランティアもいて、騒ぐ観光客を注意しているようでした。坂のてっぺんまで行くと、狭い道の両側に韓屋が広がり、その向こうにソウルの街並みが見え、異空間が体験できました。



**（韓服を着て散策している外国人もいました）**  
**（高台なので、遠くにソウルの街並みも見えます）**